

10月11・12日、長岡市で第80回全国都市問題会議がありました。

長岡市主催の行政視察で、「生ごみバイオガス発電センター」を見学してきました。

長岡市内の各地域から発生した「燃やすごみ」は、2か所のクリーンセンターのごみ焼却施設で焼却処理後、焼却灰を4か所の各最終処分場に埋立処分しています。

現在は、1日45トンほどの処理実績ですが、燃やすごみは約3割減りました。

燃やすごみから生ごみを資源としたことで、一般家庭約420世帯分にあたる、年間2千トンの二酸化炭素を削減したことになります。

### ■生ごみから発電

バイオガスは、生ごみを微生物分解することでメタン発酵させて作ります。これを利用して

発電したり、燃料として使うことができ、太陽光や風力と同じ再生可能エネルギーです。

生ごみバイオガス発電センターでは、一般家庭約1千世帯分にあたる年間410万キロワットを発電しています。平成26年からは余剰電力を約1億円売電しています。

### ■柔軟な収集方法

気になるのは生ごみの収集方法です。

元々燃やすごみは、週3回収集しています。

3回の収集日の内2回を生ごみの日にしましたが、残る1回にも生ごみを入れてもいいという柔軟な対応になっていました。

また、紙おむつの収集が燃やすごみの日の週1回では困るだろうと考えて、不適合物除去装置に、紙おむつも除去できる機能を備えることを条件にしたそうです。



長岡市  
生ごみバイオガス発電センター見学報告

# 生ごみからエネルギー

\*長岡市の人口28万人、面積891.06km<sup>2</sup>

子育て支援が、政策のベースにあることを感じました。

発電センターの施設は、ガスを発生させる装置ですから密閉空間で作業が進みます。そのため、臭気も騒音もありませんでした。

最後に出る残渣(ごんさ)も燃料として売却し、埋め立て処分場の延命とコストを削減しています。

処分から再生へと転換する、循環型のまちづくりを実践していました。

国内だけでなく外国からの視察も多いそうです。

何より子どもたちが、このサステイナブルな取組を目の当たりにすることで、次世代に繋ぐプロジェクトだと思いました。

あなたの声をお寄せください。



私たちは、日々の生活で気づいた疑問を出し合い、調べ、市政に提案する活動をしています。あなたの声と参加が、まちをつくります。市民ネットワーク鶴ヶ島に、ご意見をお寄せください。

メール [tsurunetorg@gmail.com](mailto:tsurunetorg@gmail.com)  
FAX 049-285-3504

### ●市民ネットワーク3つのルール

1. 議員(代理人)はローテーション

2. 議員報酬は市民のための活動に活用します

3. 選挙はカンパとボランティアで行います